

特集

屋久島

世界自然遺産登録20周年

平成5年、青森県の白神山地とともに、日本初の世界自然遺産に登録された屋久島。九州地方において最高峰の宮之浦岳を中心とする険しい山々の麓には、白谷雲水峡や花山歩道など豊かな森が育まれています。世界に誇れる屋久島の自然を守るため、たゆまぬ努力を続け、今年で登録から20年を迎えます。



⑤西部林道



⑥小花之江河



④永田いなか浜

世界自然遺産のある島

屋久島

屋久島は、大隅半島の南南西約60キロメートルの海上に位置しており、近隣の種子島や口永良部島などと共に大隅諸島を形成しています。円形に近い形をしており、県内の島の中では奄美大島に次いで2番目の大きさの島です。

世界自然遺産登録地は、島全体の約20%、1万7477ヘクタールの範囲で、島中央部に位置しています。

世界的に価値のある自然

世界自然遺産は、自然景観、地形・地質、生態系、生物多様性の4つの評価基準のうち、1つ以上に合致する世界的に類いまれな価値があり、また自然公園法などの法的な措置により適切な保護管理体制がとられていることなどの条件を満たすことが必要です。

屋久島は自然景観、生態系の基準において次の要件が認められました。

〔自然景観〕

樹齢1000年を超えるヤクスギの原生林が織りなす景観が、優れた自然美を有していること

〔生態系〕

亜熱帯性の海岸植生から冷温帯性の山頂付近におよぶ連続的に変化する植生（垂直分布）が見られること

世界遺産に登録

されるまで

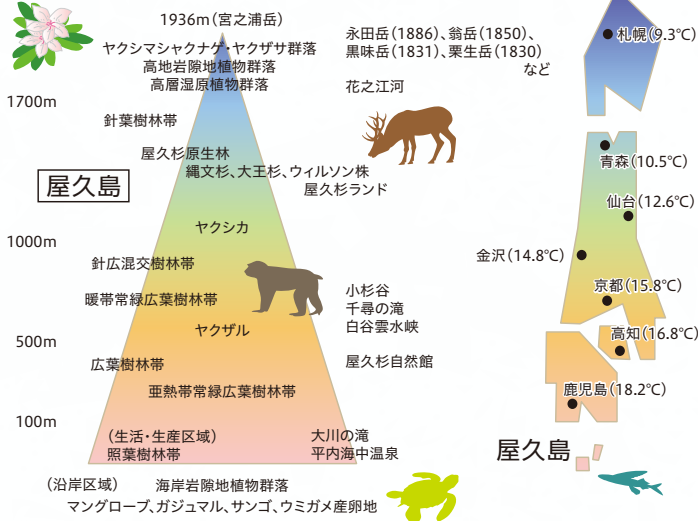
屋久島の世界遺産登録は、「屋久島環境文化村構想」の検討中に提案があり、鹿児島県と現在の屋久島町とで政府に世界遺産条約への加盟を働きかけ、実現しました。

屋久島環境文化村構想とは、県総合基本計画の戦略プロジェクトの一つとして平成4年に策定された構想です。屋久島の豊かな自然とその自然環境の中で作り上げられてきた自然と人間の関わり（環境文化）をきっかけにして、屋久島の自然のあり方や、地域の生活、生産活動を学ぶ「環境学習」を通じて、自然と人間の共生を実現しようとする新しい地域づくりの試みです。この構想の拠点施設として、屋久島環境文化村センターと屋久島環境文化研修センターが設立されました。

屋久島の地図



垂直分布の様子



★この図は、日本各地の主要な都市と屋久島の高さを平均気温で対比させたものです。

世界遺産に登録された
そのときの屋久島

屋久杉セミナー主宰・写真家 日下田 紀三さん



屋久島が世界遺産に登録された当時は、「世界遺産」そのものを島内はもちろん日本全体でも知る人が少ない状況でした。今では登録されるかどうか報道され、登録されたときには大きな反響があります。しかし、当時屋久杉自然館の館長だった私の印象としては屋久島の場合はそうではなく、登録の決定発表があったとき、町役場へ届いた垂れ幕を居合わせた十数人の職員と掲げ拍手をするだけという、それくらい状況でした。

屋久島は世界自然遺産に登録される前、昭和39年に霧島屋久国立公園の屋久島地域として国立公園に指定されました。そのため、世界遺産に登録されるといっても、国立公園とそれほど大きな変化がなく看板が加わる程度と感じていました。屋久島に対する意識が大きく変わったのは、島内ではなく外から向けられた目です。世界自然遺産に登録されたことは、多くの人が屋久島を訪れるきっかけになりました。縄文杉を目的に来島した方も、多様な自然の表情に感動することができる圧倒的な力を屋久島は持っているようです。

20年を経て、今さらながら意味深く思うことは屋久島の世界自然遺産登録が「屋久島環境文化村構想」という地域形成プロジェクトの中で発想されたということですね。